

順位表 7/7現在
基本 20試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	46p	+22	38	16	A●
2	沼津	34p	+13	33	20	H●
3	金沢	33p	+7	36	29	A△
4	今治	33p	+1	25	24	A○
5	FC大阪	32p	+9	22	13	A△
6	相模原	32p	+6	21	15	A△
7	富山	30p	+5	21	16	H△
8	琉球	30p	+2	28	26	H△
9	福島	29p	+8	31	23	H○
10	岐阜	29p	+3	31	28	---
11	北九州	29p	+3	19	16	H●
12	松本	27p	+4	31	27	A○
13	八戸	26p	-1	18	19	H●
14	長野	24p	-3	33	36	A●
15	奈良	21p	-6	25	31	A●
16	YS横浜	21p	-10	15	25	A○
17	鳥取	18p	-16	20	36	A○
18	宮崎	16p	-10	20	30	H● A○
19	讃岐	15p	-9	17	26	H○
20	岩手	13p	-28	14	42	H○

次回HomeGame

第23節 vs. ガイナーレ鳥取
7/28 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯

煮込み珍道中
串かつ

14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)

※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>

TEL. 058-252-1580

忠節橋
通り

JR 岐阜駅
北口より
北西方面へ
徒歩約 10分

★

アミカ

ドミ
イン

JR
岐阜駅

通算対戦成績	全3試合 (J3: 3試合) 岐阜0勝 / 奈良3勝 / 0分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 0勝0分1敗			
直近の対戦結果	2024/05/18 奈良 2-1 岐阜 得点者: 田口裕也 J3-14節@ルートF			
ここ 3試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/07/06 J3-20節@いちご 宮崎 0-1 岐阜	奈良	2024/07/07 J3-20節@ルートF 奈良 2-2 YS横浜
		2024/06/29 J3-19節@長良川 岐阜 1-2 八戸		2024/06/29 J3-19節@ルートF 奈良 2-2 鳥取
		2024/06/22 J3-18節@Axis 鳥取 2-4 岐阜		2024/06/23 J3-18節@愛鷹 沼津 3-0 奈良

● J3 リーグ 2024 年シーズン。開幕からの好調が一転して、4月からリーグ戦9試合勝利なしと急失速したFC岐阜。それでも6月に入りアウェイで連勝し、ここからという時にクラブに激震が走った。6/27 (木)、上野優作監督が辞任して、天野賢一ヘッドコーチが暫定監督を務めることが発表された。そんな中で迎えた、6/29 (土) 第19節・ホーム八戸戦。キックオフ直後に自陣でのミスから失点したが、前半18分には#8 荒木大吾のゴールで同点に。後半に入っても攻勢に出る岐阜だったが追加点を奪えずにいると、カウンターで2失点目。結局、岐阜は2点目を奪うことができず1-2で敗戦した。続く7/6 (土) 第20節・アウェイ宮崎戦は、前半から宮崎に主導権を握られるが、スコアレスで折り返す。後半12分に#29 野澤陸が退場して岐阜は10人になるが、後半17分に#17 田口裕也がPKを獲得し、これを自らゴールに沈めて先制点を挙げる。その後、宮崎の猛攻に耐える苦しい時間帯が続くが、しっかりと守り切って1-0で岐阜が勝利した。

このリーグ戦2試合で1勝1敗の岐阜は10位と変動なし。前節に首位・大宮が2位 (=J2 自動昇格枠)・沼津との直接対決で敗れたが、それでも両者の勝点差は12のまま。そして、その沼津と岐阜との勝点差は5と変わらない状態だが、6位 (=プレーオフ出場圏)・相模原との勝点差は3と、わずかに開きはじめている。やはり連勝しないと上位陣には引き離されてしまう。そして、今季前半戦終了時の岐阜の成績は7勝5分7敗・30得点28失点で11位。現在も沼津との勝点差5以内かつ相模原との勝点差3以内に11位・北九州までが入り、今後も1試合の勝敗結果で順位が大きく変動することが予想される今季のJ3。例年よりもさらに大混戦の様相を呈している。相手チームの研究・対策が進む後半戦になり、さらに厳しい試合展開が想定されるが、ここから勝利を積み重ねていければ、まだまだ上位への道は開けてくるはずだ。

さて、今節の対戦相手は奈良クラブ。昨季はJ3初参入で5位と大活躍。今季もスペイン人のフリアン・マリン・バサロ監督4年目体制で臨むシーズンだが、主力選手の流出が響いたのか成績は低迷し、現在は15位。直近リーグ5試合でも1勝2分2敗・7得点10失点と、勝ちきれない試合が続いている。しかしシーズン前半戦では後述のように逆転負けを喫しており、覚悟を持って臨まなければならない対戦相手だ。

奈良との対戦成績は岐阜の3敗・2得点6失点。昨季10/22 (日) 第32節・ホーム戦は、序盤から守備の乱れを突かれて2失点し、前半終了直前には退場者も出してしまった。後半に#9 山内寛史のヘッドで1点差に追いつくが、自陣でボールを奪われるミスで突き放され、1-3で敗戦。今季の5/18 (土) 第14節・アウェイ戦では、前半終了直前に#17 田口裕也のゴールで先制するが、後半に逆転されて1-2。今節こそは、奈良から初勝利を掴み取りたい。

奈良で最も警戒すべき選手には、まずは現在6ゴールの#39 嫁阪翔太を挙げる。岐阜の#19 松本歩夢とは2016年にG大阪U23での同僚で、そのマッチアップも期待されるが、前節は今季初のベンチ外で負傷も予想される。従って、直近リーグ戦で2得点、計5得点を挙げている#31 岡田優希を次に挙げる。そして、中盤の#14 中島賢星は岐阜に在籍 (2017年~2021年) し、2022年には相模原に所属 (同シーズンの相模原には#40 川上竜が所属) していた選手だ。そのFKは奈良の得点源となっており、要注意だ。一方の岐阜では、前回対戦そして前節もゴールを挙げた#17 田口の活躍に期待したい。ただし、今節は#5 石田峻真と#29 野澤陸が出場停止。天野暫定監督の選手起用にも注目したいし、代わりに出場する選手の奮起にも期待したい。

アウェイでは3連勝となったが、このホーム・長良川では3ヶ月半・6試合未勝利の岐阜。今季後半戦にチームの勢いを付けるため、ホームでの勝利は非常に重要だ。勝利のために戦い続け、走り続ける選手たちの背中を、僕ら岐阜サポーターの声援で後押ししよう。そして今節こそは、試合終了の笛と共に選手たちと勝利の歓喜を分かち合い、“HYPER CHANT” を、このホーム・長良川に響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第19節】岐阜 1-2 八戸

●アウェイ2連戦で2連勝してからのホーム戦。突然の上野監督の辞任などもあり、この試合の重要性は誰も認識してたとは思のだが……。

いきなり出鼻をくじかれ、それでも前半のうちに同点に追い付いたことは大きかったと思う。そして後半、ボールを支配する場面が増えて得点のチャンスが増えてきた時にカウンター一発で裏に抜かれて失点。後半アタマから岐阜の左サイドが狙われている感じがややもするとあったので、気にはなっていたのだが……。その後は5バックにして後ろを固めた八戸を崩しきれずに試合終了。

苦い敗戦にはなってしまったが、攻撃のバリエーションが増えたようには感じるので決して下を向くような内容ではなかったと思う。

これでシーズンの半分が終了。思い描いていた状況とは程遠い現状ではあるが、また次に向けてしっかり準備して、一戦一戦ワンプレーワンプレーを大事にして戦っていくのみ。

(岐阜の誇り)

●まさかの上野監督辞任。このタイミングでか……と思わなくもないけれど、解任じゃなくて辞任だから仕方ない。そして、(公式でも発表されて)暫定監督になった天野ヘッドコーチの初戦。岐阜市民総力戦で7,000人を超える観客。3か月間、勝利から遠ざかっているホーム戦。アウェイで連勝して3連勝が掛かった今季前半戦の最終戦。そりゃ、勝ちたいですよ。ここで勝てりゃ最高のシチュエーションだってことも十分に理解できるし、というか僕自身が勝利に飢えてると自覚してる。だけど、そんな状況ならば、負けたら単純にブーイングなのか？という疑問が、僕には残るのです。

相手の指揮官が、百戦錬磨・J通算指揮800試合を誇る石崎信弘監督だったことも、やっぱり敗戦に影響したと思う。先述の状況で、岐阜の選手たちが慎重な試合の入りをしてることを見透かして、キックオフ直後に猛ダッシュでプレスを仕掛ける。この賭けが成功して、いきなり失点、先制パンチを浴びせられる。しかし、その後には攻勢に出る岐阜、前半18分には#8荒木大吾の2試合連続ゴールで同点に追いつく。ここまでの岐阜の攻撃は、これまでの戦術よりもシンプルで、かつバリエーションにも富んでいて、非常に良かったと僕は思う。ただし同点に追いついた後は、八戸の守備の修正が機能したのと、ほんの少し、岐阜の選手たちが積極性を欠いたというか、慎重になりすぎたように思う。これまでの試合でもそう感じているんだけど、『ホーム戦だから勝たなきゃ』っていう思いが、勇気をもって挑戦するプレーを阻害しているようで、少し心配になります。とはいえ、積極的に攻撃を仕掛けていた岐阜は、わずかな隙を突かれてカウンターを浴びてしまい、2失点目。その後も再び同点に追いつくべく攻撃を続ける岐阜だったけれど、石崎監督の敷く守備ブロックにいなされつづけてしまい、結局は1-2での敗戦。負けたのは、僕でもすごく悔しいし、ミスは猛省してもらわないといけないと思う。だけど、今まで強く感じていた『攻撃の手詰まり感』のストレスを、この試合では僕はほとんど感じなかったのです。もちろん勝ち負けもプロスポーツ興業の重要な要素だけど、こういう試合を続けることも、僕は重要だと思う。(ささたく)

●試合前はゴキゲンだった。昼ご飯の『岐阜サポ店主が作る、飛騨牛すじませそば』に始まり、スタグルの『こもりのサーロイン牛串』に『コロッケ本舗の飛騨牛肉巻コロッケ』。あと、『しょうりゅうのポーノポーク・チャーシュー丼』の上だけ。胃袋のキャパが足りなくて、『森本工房の飛騨牛パンセット』にたどりつけなかったのが残念だ。肉まみれな一日だった。岐阜に生まれてよかったよ……と思いつつ、スタンドに腰を下ろしたんだけど。

試合終了の笛と同時に脱兎のごとくスタジアムの外へ。なぜだか、かなり辛くて、選手どころか、自分自身にすら、掛け

る言葉が見つからなくて。7500人超の観客がいて、アノ雰囲気醸し出せるのに勝利を得られない。沼津戦に続いて、結果が出せなかったコトに、自分でもビックリするくらい滅入ってしまったよ(苦笑)。シャイなのか、ナイーブなのか、デリケートなのか。ヒトは替われど、三拍子は揃う。

あ、それでも内容自体に不満はない。出来れば、追いついた流れの中で勝ち越してもらいたかったけど、それでも宮崎へ行くのを考え直すなんて気は起こらなかった。うん、たしかに、選手は全力で戦ってくれた。だからこそ、ただ、ただ、結果が欲しかった。

あれ？だとすると、前述のヘンな三拍子が整ってるのは自分の方が。冠試合とか、サンクス・マッチとかゴール裏の景気付けとか一切合切ヤメちゃった方がいいんじゃないか？などと不埒な考えに至るメンタル。以前なら、こういう時にこそ、檄を飛ばしていたような気がする。もう一度、気持ちを奮い立たせなきゃいけないね。初めてのアウェイ宮崎戦。気合いを入れて行ってきます！(ぐん、)

●上野監督、突然の辞任と天野暫定監督の就任については後述として、この試合について。

まず、岐阜の選手たちが全員キッチリと試合に入る前に猛プレスをかけて野澤からボールを奪い「秒殺」先制ゴールを決めた永田は、その後も野澤にボールが行くたびに「気にしてるだろ？だろ？」と調子こいて(笑)プレスをかけ続けた。そりゃそうするわ、立場が逆でもそうする、というか、逆の立場になったら岐阜の選手もそうしなきゃいけない。岐阜も荒木のゴールで追いつくけれど、後半になって、試合中ずっと「自己主張に乏しい」のか「秘技・消えたフリ」なのかわからなかったサンデーの裏(この時のサンデーはオフサイドポジションにいた)にパスが出て、妹尾(彼はオンサイド)が抜け出し、フェイントかましてシュート。岐阜DFはフリーのサンデーを意識して妹尾へのプレスが甘くなった。あとは八戸がしっかり守って勝利。岐阜もかなりがんばったんだけどね。

と、ほとんど「八戸をほめる原稿」になってしまったのは理由があって、石崎監督がなぜ一部から「名将」と呼ばれるかの一端が見えてくるから。「(チームが)やれることをしっかりやる」監督として知られているけど、この試合では(同じ意味なんだけど、レトリックとして)「(チームが)やれないことはやらせない」という志向がはっきり見えたような気がしたの。まあ、ほめるだけではなんなんで(苦笑)追記すると、彼のスタイルは「やれないことはやらせない」が第一で「やれることを増やす」部分が弱いので、チームにおける賞味期限が短い、というのはあるんだけどね。

さて、岐阜はこれからどうするのか。以下、最後の『上野監督辞任について』につづく(笑)。(吉田鑄造)

【第20節】宮崎0-1 岐阜

●耐えた！凌いだ！そして勝った！

シーズン折り返しの最初のゲーム。立ち上がりからアグレッシブに来る宮崎に対して、岐阜はリーグ戦初出場のGK後藤大輝を中心に跳ね返す時間帯が続く。しかしながら56分、宮崎のロングボールへの反応が一瞬遅れた野澤陸が宮崎の選手を倒してしまい、一発レッドカードで退場に。

この時はさすがにドローで勝ち点1持ち帰れば御の字だと思っただったが、その後今度は田口裕也が宮崎ゴール前ペナルティエリア内で宮崎のGK青木に倒されてPKを獲得。これを田口が決めて岐阜が先制。それから数的不利の状況を身体を張って守り抜き、勝ち点3をゲット。

ただ勝ち点3と引き換えに退場した野澤、そして石田峻真は警告の累積で次節は出場停止という代償を払うことに。苦しい状況に変わりはないが、チーム全員の力を結集してしっかり準備をして次の戦いに臨みたい。(岐阜の誇り)

●公式のスタッツを見てみると、シュート数は岐阜が3本、宮崎が9本。CKも岐阜が4本に対して宮崎が12本。しかも後半12分に岐阜は退場者を出して、10人で残り30分以上を戦っている。……うん、普通はこれって、圧倒されて負けた試合のスタッツですよ。だけど1-0で勝利してるのは何故(苦笑)。まさに、かの名言「勝ちに不思議の勝ちあり。」を、しみじみと痛感させられる試合でありました。しかし一方では「勝てばよからうなのだアア！」と言いたかったりします(笑)。

とにかく、暑かった。試合開始が19時なのに気温33℃。海沿いなのに涼しい風も吹いてこない。そんな気候で宮崎が激しいプレスと縦に早い攻撃を仕掛けてきて、それを岐阜が受ける形で試合は進む。もちろん岐阜も攻撃を仕掛けるけれど、フィニッシュの場面で精度を欠いて、決定機までには至らない。そして後半12分、相手GKのパンツキックから最前線で裏抜けされた相手を#29野澤陸が倒して1発レッド。完全にDOGSO(決定的得点機会の阻止)だったので判定は妥当なんだけど、PA外ギリギリで倒しててFKに。覚悟の上での反則だったんだろうなあ……。これで10人になった岐阜、厳しいなあ……と思ってたら、その5分後に#17田口裕也がPA内で倒されて、今度はPK獲得(苦笑)。そして……#17田口がボールをセットして、なんか既視感あるなーって思ったら、相手GK#55青木心って、ホーム宮崎戦で#17田口のPK止めてる選手やんか！そこからの、僕の心境はお察し下さい(苦笑)。いや、入ってホント良かった……。まあ逆に、PK3回目だから、また左下に飛ぶという“読み合戦”があったのかも(苦笑)。その後もまあ、実に長かったですよ……。最初に示したスタッツも納得の試合展開(苦笑)。だけど、本当に粘り強く守り切った。特筆すべきは今季初先発のGK#50後藤大輝の活躍かな。あと、#99イ・ヨンジェを先発で使うのも奏功したと思う。天野暫定監督の選手起用も称えたい……。ところで、いつまで“暫定”って付けるのかしら(苦笑)。

先述したPK失敗もそうなんだけど、4月のホーム戦で(当時最下位だった)宮崎に負けてから、今季の悪夢が始まったことを思い出した。この勝利で、そんな悪夢を払い除けたのだと思いたい。(ささたく)

●まず、最初に「宮崎いちごスタジアムは涼しくてよかった。」と言いたい。キックオフ以降は、体感として開場前より5℃くらい下がったような気がする。さすがは、黒潮流れる日向灘の海風。コレがメモリアルなら(以下略)。ただし、コレは日陰になるメインスタンドに陣取った観戦者の言い分。九州の夏は、ボクらの地元と比べると、はるかに夜の帷が下りるのが遅い。そんな中でのゴール裏の最前線部隊の奮闘には、選手と同等の敬意を表したい。お疲れ様でした。ありがとうございます！ホント、開場までの陽射しは痛いくらいに熱かった。火傷するよね、アレは。

そんな環境で始まった試合。前節が敗戦で今節が勝利という不可思議。正直、押されっぱなしの展開で、挙句に陸の一発レッドでの数的不利。よくぞ、耐えぬいてくれました。そし、ユーヤのPK。「パワーやスピードがなくても、タイミングとコースでイける。」と極意を会得したかのようなシュート。相手GKの足に当たってネットを揺らすところまで様式美のように美しかった(笑)。兎にも角にも、コレで遂に2桁得点。ヤベッ、前半で10点ならシーズンのトータルで20点？アカン！見つかってまう！！

次節の奈良戦。陸と峻真が揃って休みなのが辛いけど、そういう逆境を乗り越えていかないと目標は達成出来ない。今度こそホームでの凱歌を！(ぐん)

●DAZN観戦での感想になるけど、すっごいイヤな表現をすると、野澤に感謝。よくぞ退場覚悟でエリア外で倒してくれた。おかげで勝ち点3に結びついたと言ってもいい。まあ、八戸戦のアレで帳消し、ではあるんだけどね(苦笑)。

しかし、田口のPKにはどう表現したものやら。そりゃ相手のGKだって長良川で田口のPK止めてるし、その時と同じく岐阜から見て左下に飛んだけど、田口が今回蹴ったのは、「やや左下」の真ん中。なんか、郡上八幡の夏の風物詩『新橋からの飛び込み』に初挑戦する少年のようだったよ(笑)。これで「ぼくは左下以外にも蹴れるんだ！」と自信につながったことだろう。いつか、PKを右上サイドネットにビシッと蹴れるようになってほしい。(吉田鑄造)

上野監督辞任について。

●6/27（木）に突然やってきた、上野優作監督の辞任と天野賢一HCの暫定監督就任のリリース。ここまで3か月間・10試合、なかなか勝てずに散々苦労して、やっとアウェイで連勝できて。さあ今季前半戦の最終戦、しかも岐阜市民総力戦で観客が多い試合で、しっかりと勝って勢いを付けて後半戦に……と誰もが考えていたタイミングだったろうから、フロントも相当に悩んだことだろう。想定していたのなら、だいたい火曜日に辞任（あるいは解任）のリリースは出るものだ。そして、天野HCに“暫定監督”と付いているのも、それを物語っているような気がする。なお、リリースされた上野さんのコメントだと「2試合前からチーム指導における役割を見直し……」とある。僕は琉球戦あたりから少し変化を感じていたけれど、違うのかしら？監督とヘッドコーチの役割って、その組み合わせの数だけバリエーションがあると僕は思っている。戦術的な部分を天野ヘッドコーチに移管して、そのまま上野監督体制の続投……とできなかったのは、上野さんの純粋さ故かなと思ったりしています。

J3に降格してから昨季まで4シーズン、毎年監督が交代（あるいは途中で退任）して、全く積み上げの無かったチーム事情。これを改めるべく、今季は上野監督2年目体制でチーム戦術の浸透・積み上げをして、（可能ならば）J2昇格を目指すのだという、クラブの方針は残念ながら崩れてしまった。もちろん、上野さんはアドバイザー的な立場でクラブに残るとのことだし、そして天野ヘッドコーチ体制2年目でもあるとはいえ、再びチームの積み上げをしてゆく必要がある。この点、やはり、上野さんが監督として「やりたい」サッカーと、FC岐阜として「できる」サッカーが、少し違っていたのだと僕は思う。上野さんは直前まで日本代表コーチ、つまり「各クラブから優秀な選手を招集できる」立場だった。（残念ながら）J3クラブの選手とは求められるレベルが異なっていると思う。柏木陽介が引退時に「今のサッカーはフィジカル全盛で」と語っていたのは記憶に新しいが、リーグとしてJ3はフィジカル面が特に重要視されている。そうすると、パス（ポゼッション）重視の“日本代表的な”サッカーでは、なかなか結果が出なくて苦しんだことだろう。また、代表チームでは各クラブが鍛えた選手に、代表としてのチーム戦術を浸透させれば良かっただろうが、そのクラブでは、選手を鍛える部分を重視しなくてはならず、その点でも難しかっただろう。ただし、昨季も今季も序盤は調子が良く、4月に入って悪くなっていった。昨季と同じような傾向になってしまっているのは、果たして上野監督だけの問題なのかどうか、クラブとしてしっかり検証する必要があるだろう。また、J3で簡単に結果が出るサッカーをしたとしても、J2で結果が出るとは限らない。昇格を狙うチームはある程度、来季は上のカテゴリーで戦うことも視野に入れないとダメなので、チーム編成など予算制約も厳しいJ3クラブの世界は、ホント難しいなあと思っ

ている。個人的には“暫定監督”なのが疑問で仕方ないけれど、ここ数試合を見る限り、天野さんは比較的シンプルな戦い方を志向していると思う。現実的と言ってもいい。北九州で小林伸二監督（現・栃木監督）の元でヘッドコーチを3年間務め、監督としても北九州を1年間率いている経験が、そうさせるのかもしれないと思う。そして、天野さんに移ったと思われる4試合の成績は、3勝1敗・8得点5失点と、上々の滑り出しだ。よっぽどのことがない限り、少なくとも今季後半戦は、このまま覚悟を決めて天野体制で行くべきではないだろうか。上野さん、1年半お疲れ様でした。今後もクラブには関わってくれるとのことですので、引き続きよろしくお願ひします。そして、「解任・辞任を経験していないサッカークラブの監督など存在しない」という言葉をお送りしますので、今度も指導者（あるいはフロント）としてのキャリアを積み上げ続けてください。可能でしたら、我がクラブで。（ささたく）

●上野（前）監督、お疲れ様でした。クラブの公式発表で、フロントに残ると読みました。引き続き、FC岐阜のためによりしくお願いします。クラブから発表のあった職務内容を読むと、「岐阜に残らなくても（リモートで）出来そう」な業務でしたが。

監督交代そのものは、正直言うと、「ああやっぱり」という気持ちにしかならない。ホーム北九州戦の印象があまりに強い。あの試合での強烈な不満と絶望を受けて、八戸戦での敵将・石崎監督の志向をみると、「今季の目標を少しでも『J2昇格』（プレーオフ経由を含む）に置いているのなら、監督交代は当然」としか、ぼくは受け取れない。

やはり、上野優作氏という指導者は「代表」の系譜にいるひとだったのだと思う。「プロ・チームの指導」は未経験だったわけだし、1年半が経過してもプロ・チームに必要な『リアリズム』を志向することはなかった。ここで、八戸戦の感想で書いた石崎監督と比較をすると、クラブが上野氏に与えたミッションをどう考えていたのか？を知りたくなる。

上野氏のサッカーが「まったくダメ」だとは、いまでも思っていない。おそらく、そのサッカーに向けた選手を集めて時間をかければ、就任3年目には堂々と自動昇格枠を狙えるチームになるかもしれない。でも、それはクラブ環境が許さない。小松社長が「2年間は昇格を諦めてください」と言い切るのも難しいだろうし、なにせ「ここ～は地の果てジェイスリイ」（『カスバの女』）なわけで、時間をかけている最中に選手を軽々と引き抜かれてしまうリスクがある。くぼりょう、タクミ、トーマ、元気でやってるかぁ。

だから、J3にいるFC岐阜に必要な指導者は、（たとえば『ジャパニーズ・ウェイ』に染まったような）ロマンチストではない。すぐ上にも書いたけど、ロマンチストが悪いとは言っていないよ。いまのウチには向いてないし、逆にいえばロマンチスト傾向の監督にとっても、いまの岐阜は向いてない。岐阜に必要なのは「日銭が稼げる」リアリストの監督だ。天野暫定監督にその資質があるかは、まだわからない。でも、「八戸戦の2試合前から指揮の見直しを行った」と上野氏が語った通りとするなら、実質的な「天野体制」になってからの岐阜はA○A○H●A○。八戸戦だけを見て「天野暫定監督じゃダメだ」というのは、それは違うんじゃないの？と思うんだけどね。（吉田铸造）